

論文要約

フィンランドにおける音楽科カリキュラム
及び教員養成課程カリキュラムの構成と内容の変遷
ー求められる資質・能力という観点からー

広島大学大学院

教育学研究科 文化教育開発専攻

D125829 藤井 恵子

論文題目

フィンランドにおける音楽科カリキュラム及び教員養成課程カリキュラムの構成と内容の変遷
ー求められる資質・能力という観点からー

論文目次

序章

- 第1節 本研究の背景
- 第2節 先行研究の検討
- 第3節 本研究の目的と方法

第I部 フィンランドにおける音楽科教育と音楽科教員養成課程の変遷

第1章 フィンランドにおける学校音楽教育の起源

- 第1節 18世紀以前のスウェーデン・フィンランド王国における教会と聖歌
- 第2節 18世紀の民族主義の台頭から1860年代における国民学校と教員養成セミナーの成立
- 第3節 20世紀初頭から1960年代の義務教育化の動向

第2章 1970年代以降のコアカリキュラムと音楽科カリキュラムの特徴

- 第1節 コアカリキュラムの成立
- 第2節 Framework Curriculum for the Comprehensive School 1994における音楽科カリキュラムの特徴
- 第3節 総括

第II部 フィンランドのNational Core Curriculumにおける音楽科カリキュラムの構成と内容の特徴

第3章 National Core Curriculum 2004における音楽科カリキュラムの構成と学校音楽教育の制度の概要

第1節 National Core Curriculum 2004の各教育段階における音楽科教育カリキュラムの概要と関連法案

第1項 フィンランドの学校音楽教育制度の概要

第2項 就学前教育(プリスクール)の概要

1. 制度と教育内容
2. 教員の資格要件
3. 教育環境
4. 就学前学級における音楽科の授業展開過程例
5. 授業観察を終えて

第3項 基礎学校における音楽科カリキュラムの構成と内容の特徴

1. 初等教育－NCC2004における基礎学校の第1学年～第4学年の音楽教育の目標と指導内容－
2. 前期中等教育－NCC2004における基礎学校の第5学年～第9学年の音楽教育の目標と

指導内容－

3. 小学校における音楽科の授業展開過程例Ⅰ

4. 小学校における音楽科の授業展開過程例Ⅱ

5. 中学校における音楽科の授業展開過程例

第4項 後期中等教育カリキュラム Lukion Opetussuunnitelman perusteet 2003 における
音楽科カリキュラムの構成と内容の特徴

1. 教育制度

2. 後期中等教育段階－Lukion opetussuunnitelman perusteet 2003 第5章第17節にお
ける音楽科カリキュラムの構成と内容の特徴－

第2節 National Core Curriculum 2004 における音楽科カリキュラムの構造的特徴

第3節 総括

第4章 National Core Curriculum 2004 施行時における地方自治体の音楽科カリキュラムの構成
と内容の特徴－主要都市を中心に－

第1節 主要都市の各教育段階における音楽科カリキュラムの構成と内容の特徴

第1項 就学前教育

第2項 基礎学校教育

1. ユヴァスキュラ市の音楽科カリキュラムの構成

2. ケラヴァ市の音楽科カリキュラムの構成

3. オウル市の音楽科カリキュラムの構成

第3項 後期中等学校教育

第2節 総括－National Core Curriculum 2004 と地方自治体の音楽科カリキュラムの構造的
特徴－

第5章 National Core Curriculum 2004 における音楽科カリキュラムの評価プロジェクト－
『2020年の基礎教育』（Perusopetus 2020）－

第1節 National Core Curriculum 2004 の評価プロジェクト実施の背景と『2020年の基礎教
育』（Perusopetus 2020）の概要

第2節 音楽科教育に関するアンケート実施

第3節 ユヴァスキュラ大学による音楽科カリキュラム評価報告

第4節 総括

第6章 National Core Curriculum 2014 における音楽科カリキュラムの構成

第1節 National Core Curriculum 2014 の各教育段階における音楽科カリキュラムの概要

第1項 就学前教育

第2項 基礎学校教育における音楽科カリキュラムの構成

1. NCC2014 第13章4節8項 音楽 前文

2. NCC2014 における基礎学校の第1～第2学年の音楽科教育の目標と指導内容

3. NCC2014 における基礎学校の第3～第6学年の音楽科教育の目標と指導内容

4. NCC2014 における基礎学校の第7～第9学年の音楽科教育の目標と指導内容

第3項 後期中等学校教育カリキュラム Lukion Opetussuunnitelman perusteet 2015 における音楽科カリキュラムの構成と内容の特徴

第2節 National Core Curriculum 2014 における音楽科カリキュラムの構造的特徴

第1項 National Core Curriculum 2014 と包括的なコンピテンシー

第2項 包括的なコンピテンシーと学習内容および評価基準

第3節 総括

第Ⅲ部 主要三大学における National Core Curriculum に関連した音楽科教員養成課程カリキュラムの特徴

第7章 主要三大学における音楽科教員養成課程カリキュラム－National Core Curriculum 2004 施行時－

第1節 フィンランドにおける一般的な教員資格の種類

第2節 ユヴァスキュラ大学における音楽科教員養成課程カリキュラム

Musiikkaikasvatus Opetussuunnitelma 2013-2015

第1項 入学試験：音楽教育課程

第2項 学位の種類と取得方法

第3項 教育実習(en:Teaching practice)

第4項 音楽教育学専攻の授業の概要

第5項 総括

第3節 オウル大学における音楽科教員養成課程カリキュラム

Course Structure Diagram 2014-2015 Degree Programme in Music Education

第1項 入学試験：音楽教育課程

第2項 学位の種類と取得方法

第3項 教育実習(en:Teaching practice)

第4項 音楽教育学専攻の授業の概要

第4節 シベリウス・アカデミーにおける音楽科教員養成課程カリキュラム

Curriculum and course descriptions 2014-2015

第1項 入学試験：音楽教育課程

第2項 学位の種類と取得方法

第3項 教育実習(en:Teaching practice)

第4項 音楽教育学専攻の授業の概要

第5節 総括－National Core Curriculum 2004 施行時のフィンランドにおいて求められる音楽科教員の資質・能力－

第8章 主要三大学における音楽科教員養成課程カリキュラムの変容－National Core Curriculum 2014 改訂時－

第1節 ユヴァスキュラ大学における音楽科教員養成課程カリキュラム

Musiikkaikasvatus opsetussuunnitelma 2015-2017

第1項 入学試験：音楽教育課程

第2項 学位の種類と取得方法

第3項 教育実習(en:Teaching practice)

第4項 音楽教育学専攻の授業の概要

第2節 オウル大学における音楽科教員養成課程カリキュラム

Course Structure Diagram 2016-2017 Degree Programme in Music Education

第1項 入学試験：音楽教育課程

第2項 学位の種類と取得方法

第3項 教育実習(en:Teaching practice)

第4項 音楽教育学専攻の授業の概要

第3節 シベリウス・アカデミーにおける音楽科教員養成課程カリキュラム

Curriculum and course descriptions 2017-2018

第1項 入学試験：音楽教育課程

第2項 学位の種類と取得方法

第3項 教育実習(en:Teaching practice)

第4項 音楽教育学専攻の授業の概要

第4節 総括－National Core Curriculum 2014 改訂時フィンランドにおいて求められる音楽科教員の資質・能力－

終章

第1節 本研究の成果

第2節 今後の課題と展望

文献

論文要旨

序章

本章では、研究の背景と先行研究の検討、そして目的と研究方法について言及した。

音楽科教育の課題や目標を考察していく上で、音楽科教育で求める資質と能力の明確な定義は不可避であることは言うまでもない。この定義の過程で、まず他国のカリキュラムに示される音楽科教育の課題や目標の構成を分析し、音楽科教員養成カリキュラムの特徴や歴史的変遷に対する学術的な探究を行うことこそが、今後我が国の音楽科教育の課題を客観的に比較分析する上で必要であることを指摘した。

フィンランドは、2000年から現在まで、PISAの結果が常に上位に位置し、高水準の教育が継続的に機能している国であるといえる。このため、各国の教育機関から、教員の指導力や教育法が注目を集めている。音楽の分野では、指揮者、作曲家、演奏家、教育者の輩出の歴史も古く、シベリウス・アカデミーにおいては国際コンクールの入賞者数は世界第5位であり、博士号取得者はジュリアード音楽院で教鞭をとるなど活躍が知られている。教育政策においては、教育文化省と共に、1991年に組織されたフィンランド国家教育委員会が教育の内容、水準の維持等を担当し、教育の指針、内容及び就学前教育から成人教育に到るまでの各カリキュラムを検討改善する。早くから生涯学習に取り組み、2014年の音楽科カリキュラムの改訂においては、2009年から行われた第三者機関によるコアカリキュラムの評価プロジェクトを組織し、音楽科カリキュラムの調査・分析を行っている。

こうしたフィンランドの音楽科カリキュラムの分析過程から、課題に対する実践指導を現場で行う

音楽科教員を今後どのように養成すべきなのか、教員養成課程のカリキュラムとの相関も視野に入れながら複合的に研究する必要がある。なぜなら、他国における音楽科教員に求められる資質・能力を明らかにすることによって、我が国における今後の課題に対応する教員像や、音楽科教員養成課程のカリキュラムを構築する上の示唆が明確に浮かび上がってくるためである。

第2節では、先行研究の検討を行った。フィンランドでは、1970年から我が国の学習指導要領にあたる、ナショナルコアカリキュラム National Core Curriculum（以下、NCC）を制定している。NCC2004では新たにキー・コンピテンシーやクロス・カリキュラムのテーマの視点を加え、基本的に10年毎の改訂を行っている。このNCCにおける、音楽教育の指針と内容や教科の目標は、常に課題に対する調査を行うことによって、その時々フィンランドの音楽教育の課題を反映している。主な特徴としては、目標に対する長期的な取り組み、芸術科目の重視傾向、初等学校段階から音楽選択コースの開設、柔軟な解釈が可能となっている。

フィンランドの音楽科教育に関して、学校音楽教育のルーツをスウェーデン側の史料から検証し、その後成立したフィンランドの音楽科カリキュラムの歴史的変遷と、主要大学における音楽科教員養成課程カリキュラムを包括的にとらえ、教員の資質・能力といった観点からの研究は本論に先立つものは存在しない。

フィンランド国内における音楽科教育研究の動向は、音楽教育や音楽そのものが人間にどのような影響を及ぼすかといった流れが現在の主流となっている。こうした側面は、音楽療法に関する研究や生涯学習教育に着手するフィンランド国内の教育目標に沿っている。

我が国では、阿波（2013）がオウル市の基礎学校段階の音楽科カリキュラムを対象とした報告を行っているが、他の地方自治体や、基礎教育段階以外の音楽科カリキュラムに対する調査は行っていない。加えて、近年改訂されたNCC2014との比較研究も行われていない。

第3節では、本研究の目的と方法について述べた。

本研究ではまず、フィンランドの学校教育における音楽科教育、ならびに音楽科教員養成課程の起源から歴史的変遷の概観し、そして、フィンランドの学校音楽教育制度の構成、基礎学校段階における音楽科教員の資格、および教育実習についての現状を整理する。また、近年改訂されたNCC2014について、各教育段階の音楽科カリキュラムの構成と内容に関する分析を行う。そして、NCC2014の構成、課題、目標の記述のNCC2004との変容に着目し、音楽科教育の課題の変遷を読み解く。

また、NCC2004に対応した地方自治体の音楽科カリキュラムを取り上げ、包括的にカリキュラムの構成を調査・分析する。さらに、NCC2004に関連し、音楽科教員に求められる資質・能力はどのようなものか検討する。この調査の対象を、音楽科教員養成課程の修士課程を有する国立の教育大学である、ユヴァスキュラ大学、オウル大学及びシベリウス・アカデミーとした。これら三大学の学位プログラムを分析・比較したうえで検討を行う。最終的に、国の提示するカリキュラム、地方自治体の提示するカリキュラムに関して、各教育段階の課題や構成の全体像を俯瞰することにより、音楽科教育全体の枠組みを明らかにし、フィンランドの音楽科カリキュラムの構成の特徴と近年の変容をふまえ、フィンランドにおいて求められる音楽科教員の資質・能力とはどのようなものかを解明していくことを、本研究の目的とした。

第I部 フィンランドにおける音楽科教育と音楽科教員養成課程の変遷

第1章 フィンランドにおける学校音楽教育の起源

本研究の第I部においては、18世紀以前のフィンランドにおける学校音楽教育の開始の確認から、

20世紀末にかけての音楽科カリキュラムの史的変遷について考察した。

第1章では、1571年のスウェーデン・フィンランド王国の時代から、地方の行政機関の一端を担ったルター派教会の教区牧師が行っていた教理諮問の中に、聖歌が歌えることという具体的な内容が提示されており、一般の民衆に対し既に公的な側面を持つ音楽教育の開始があったことをスウェーデン側の史料から確認できた。こうした宗教活動が、後に独立し、フィンランドを形成するコミュニティの音楽文化に、教育的ともいえる影響を与えていた。

さらに、19世紀初頭、シグネウス Uno Cygnaeus らにより組織された国民学校、教員養成セミナーの科目にも合唱（Singing）の教科が存在し、音楽が重視されていたことが確認できた。続く基礎学校への移行期に、各大学における基礎学校学級担任教員養成コースの入学試験に音楽実技が組み込まれ、フィンランドの基礎学校教育において音楽教育の必要性が公に認められるまでの歴史的変遷を示した。

第2章 1970年代以降のコアカリキュラムと音楽科カリキュラムの特徴

第2章では、1970年代からの教育改革の流れを受けて、音楽科カリキュラムの構成も大きく変化したことを整理した。FCCS1994におけるカリキュラム理論の転換は、音楽科カリキュラムにも大きな影響を及ぼした。デューイの思想を取り入れ、それまでの詳細な目標、内容や課題を細かく規定したもものから、目標と簡易な教材内容を示すガイドラインへの転換をうながし、地方自治体や学校の権限を拡大した。さらに、評価基準が示されなかった点は、この音楽科カリキュラムの大きな特徴である。この結果、自治体や学校間で授業内容の評価基準に格差が広がり混乱が起き、音楽科教員に多くの問題を与えた。

第Ⅱ部 フィンランドの National Core Curriculum における音楽科カリキュラムの構成と内容の特徴

第3章 National Core Curriculum 2004 における音楽科カリキュラムの構成と学校音楽教育の制度の概要

第Ⅱ部においては、フィンランドの NCC2004 と NCC2014 の各音楽科カリキュラムの構成について各教育段階別に整理し、全体像を俯瞰しつつ、特徴について示した。

第3章においては、NCC2004 に提示された基礎学校における音楽科教育の課題、各学年区分における音楽の手段、指導内容、修了時の良い活動、最終評価の記述を整理し、音楽科カリキュラムの全体像を示した。学校音楽教育の制度の概要と各教育段階におけるカリキュラム内容を示し、学習内容の連続性について示した。

NCC2004 第7章 15節音楽の記述から、(i) 生徒の音楽に対する「興味・関心の対象」を見つけること、(ii) 積極的に音楽的な活動に取り組むこと、(iii) 音楽表現する手段を見つけること、(iv) 全体的な生徒の成長を促すこと、(v) 音楽における時代、背景、異なる手法、異なる文化に対して理解すること、(vi) 音楽づくりと聴くことに基づく経験から音楽の概念を理解すること、という6点に対し、音楽科教員は生徒に対する支援が行えることが求められていた。

また、NCC2004 では、評価の観点の基準を具体的に明記している。この点は、FCCS1994 からの明らかな変更である。

音楽に関する様々な活動の中で、活性化する手段を使うこと、言語活動だけではなく身体表現など多様な表現ができること、個人と集団との関わりの中で一員としてどのように行動し、他のメンバーに対して考えた行動をとれるか、といったコミュニケーション能力や社会的スキルなど人間関係の形

成の内容に関して触れており、さらに評価にも含まれることは NCC2004 の特徴の1つである。これは、フィンランドの教育政策が 1997～2003 年に OECD の DeSeCo で提唱されたキー・コンピテンシーの影響を受けていることが考えられると同時に、音楽を多様な表現や、協働できる資質・能力を育成する社会的学習の1つの手段としてとらえている側面が読み取れた。

第4章 National Core Curriculum 2004 施行時における地方自治体の音楽科カリキュラムの構成と内容の特徴－主要都市を中心に－

第4章では、地方自治体の音楽科カリキュラム主要都市を中心に、NCC2004 が施行されていた当時、ケラヴァ市、ユヴァスキュラ市、オウル市をはじめとする代表的な地方自治体の就学前教育、基礎学校教育、後期中等学校教育の各教育段階における音楽科カリキュラムを調査した上で、概要と特徴を明らかにした。

第5章 National Core Curriculum 2004 における音楽科カリキュラムの評価プロジェクト『2020年の基礎教育』(Perusopetus 2020)－

第5章では、『2020年の基礎教育』(Perusopetus 2020)における、音楽科カリキュラムに関する評価と様々な報告について、背景と概要を示した。2010年～2011年、中学校段階の生徒約60,000人に対し、インターネットを通じた調査が行われた。また、ユヴァスキュラ大学が行った NCC2004 の音楽科カリキュラムに対する調査で、目標がかなり達成されたと報告された。しかし、基礎学校教育段階の音楽の質と量には格差があり、地方の教員は正しい評価か疑問をもつ原因となることが指摘されていた。調査により、音楽が近年の子ども、市民及び社会にとってそれぞれどのような機能・役割を果たしているのか、教科の枠組みを超えて多角的に分析・評価していることが読み取れた。

第6章 National Core Curriculum 2014 における音楽科カリキュラムの構成

第6章においては、NCC2014 施行時の各教育段の音楽科カリキュラムの構成と特徴を整理し、NCC2004 との変更点を整理した。

第Ⅲ部 主要三大学における National Core Curriculum に関連した音楽科教員養成課程カリキュラムの特徴

第7章 主要三大学における音楽科教員養成課程カリキュラム－National Core Curriculum 2004 施行時－

第Ⅲ部第7章では、NCC2004 と音楽科教員養成課程カリキュラムの相関について調査した。音楽科教員養成課程を開設する国立大学の中でも、特に歴史の長いオウル大学、ユヴァスキュラ大学、シベリウス・アカデミーのカリキュラムを比較・分析した。各大学で共通することは、全体の1/5を占める60単位の教育学の重視である。また、リサーチスキルは、三大学においてそれぞれ約1割の単位を占める。教育実習のフィードバックによる指導スキルの定着化や、音楽教育を科学的に分析し、研究する姿勢を育成する志向が見られる。そしてこの研究のためのスキルは、最終的に修士論文へ結びつくことも読み取れる。加えて、各大学の学位プログラムは、創造性、表現力や思考力などの認知スキル、他者との協働関係や自律に関わる社会スキルなどの子どもの資質・能力を育成する手段として、NCC2004 の音楽に見られた「③中心内容」に対応した科目で構成されていた。

各大学は教育学と教育実習を基盤に、音楽教科を子どもにどのように学ばせるか、内容を段階的に

構造化し、専門分野で行われる活動と組み合わせ、様々な実践的な指導スキルを培うよう構成している。またそれらの実践に対し、科学的に調査を行い、分析・評価・研究できる音楽科教員のリサーチスキルにも重点を置いていることがわかった。

第8章 主要三大学における音楽科教員養成課程カリキュラムの変容—National Core Curriculum 2014 改訂時—

第8章では、主要三大学における音楽科教員養成課程カリキュラムが NCC2014 改訂を受け、どのように変容したのか、ユヴァスキュラ大学、オウル大学、University of the Arts Helsinki に統合されたシペリウス・アカデミーの音楽科教員養成課程カリキュラムを調査し、特徴を示した。

終章

第1節 本研究の成果

終章においては、以上の結果から、フィンランドの国家カリキュラムの史的変遷を踏まえ、NCC2004 から NCC2014 における音楽科カリキュラムの構成の変容について次のようにまとめた。

1994 年改訂の国家カリキュラム FCCS における、デューイの思想を取り入れたカリキュラム理論の転換は、音楽科カリキュラムにも大きな影響を及ぼした。目標と簡易な教材内容を示すガイドラインへの転換をうながし、質的にも量的にも縮小化した。音楽の教科の目標としては、音楽は創造性を開発し、協力と交流を生み、社会教育を支援すると提示された。また、音楽という教科を通じ、自らの文化生活に参加し、音楽に継続的な関心をもたらし、評価を行う文化的市民を教育することを掲げている。その上で、人格の発展、学校教育の領域の統合、リサーチ能力、問題解決能力といった変化する社会に対応し得る様々な能力を、音楽科教育を通じた学習でも培うことを重視している。しかし、FCCS では評価基準が示されなかった結果、自治体や学校間で授業内容の評価基準に格差が広がり混乱が起きた。

これを受け、NCC2004 の構成は、「①音楽教育の課題」、「②目標」、「③中心内容」、「④評価基準」の4つのカテゴリーに増加した。様々な音楽科教育の課題に対し、音楽科教員は児童・生徒の支援を行うといった教育方針を明確化し、音楽を通じた学び中心の活動の中で、言語活動だけではなく身体表現など多様な表現する力、コミュニケーション能力や社会的スキルを培うといった社会的学習が、評価にも含まれるようになる。キー・コンピテンシーと総合的・横断的なテーマの視点を加えた NCC2004 における音楽科教育における課題は、動きやイメージなど多彩な表現力、客観的な鑑賞力、子どもが自らの音楽に対する考えを持ち、未知の問題に答えが出せるような分析に基づく思考力と、長期的に反復練習する忍耐力、他者との対話や環境を見渡して問題を判断し、解決できるような問題解決力、といった様々な資質・能力を音楽という教科を通じて育成することが主眼であったといえる。

しかし、NCC2004 は、キー・コンピテンシーと目標との関連が曖昧であった。NCC2014 における音楽科カリキュラムの内容は、前文において「①教科の課題」が示され、「②教科の目標（対応表：教育目標とキーコンテンツ領域、包括されるコンピテンシーとの関連）」、「③目標に関する音楽のキーコンテンツ領域」、「④音楽に関連した学習環境と目標に関する作業方法」、「⑤音楽の特別な支援、導入」、「⑥評価の基準」と、6つのカテゴリーで記述されている。学年区分の変更、単位の増加、課題の増加、上下学年の協働、教科の目標の細分化、及び包括的なコンピテンシーの学習目標領域と目標の関連付けの明示化といった変容が明らかとなった。また、NCC2014 は、各学年区分で評価に関する項目が記述され増加した。さらに、児童・生徒自身のフィードバックを明記した点も NCC2014 の新し

い変容で、自身とグループの活動を児童・生徒自ら評価することが促されている。

こうした NCC における音楽科カリキュラムの構成の変容の結果をふまえ、フィンランドの主要大学における音楽科教員養成課程カリキュラムの分析を行うと、我が国の音楽科教員養成システムとの差異は、以下のようにまとめられる。

NCC2004 施行時の音楽科教員養成課程カリキュラムの特徴的な点は、①修士号取得前提のもとに展開される長期的な 5 年半の教員養成と長期的な教育実習、②生涯教育を基軸とする広範な指導環境が前提とされている点、③音楽教育に関する実践的な指導技術を習得することを中心に組まれたカリキュラム、④音楽教育の内容を生徒にとって身近な存在にすることを目標としたバンド音楽やポピュラー音楽の導入と伝統音楽の現代アレンジ、⑤積極的な教材研究と音楽電子テクノロジーの導入、⑥科学的調査の推奨、様々な現場の音楽教育に対する詳細な研究とフィードバック、⑦教職に対する社会の尊敬と理解である。

しかし、NCC2014 改訂を受けて、主要三大学の提示するカリキュラムの内容は、教育学重視の傾向や長期にわたる教育実習を課すことには変化がない。しかし、大学によっては、単位分布の変更や、新たな講座が開講された。特徴的な点は、①教科の科学研究におけるリサーチスキルに関する単位の増加、②新たな音楽テクノロジーに関する現代社会の音楽に対するニーズに向けた早急な対応、③伝統音楽の重視、④生涯学習に向けての成人音楽教育の開講、⑤現場において必要な協働の相互作用の重視、⑥大学間の連携の増加など、現代社会の課題に対して必要な音楽科教員の育成する目的と対応が明確化していた。

以上のことから、現代フィンランドにおいて音楽科教員に求められる資質・能力とは、NCC に対応した授業を実践するために不可欠のさまざまなスキルかつ研究し続ける能力ととらえられる。その特徴は、①高い実技能力（即興能力、伴奏、合奏などに対応した高度な教科専門性）、②伝統音楽も含めた広範な専門知識、③教育学や長期的な教育実習で培った実践的なスキルに裏打ちされた指導力、④協働する力を育てる様々なプロジェクトを推進するリーダーシップ力、⑤現場で他の職員とのコミュニケーションを円滑に行える力、⑥最新の音楽テクノロジーに対応する力、⑦リサーチスキルに基づき継続して研究し続ける力ということが明らかになった。

第 2 節 今後の課題と展望

本研究において、フィンランドの音楽教育の素地は、スウェーデン・フィンランド王国の歴史を含めると、聖歌による歌唱や合唱が深く文化に根ざした環境で、古く 16 世紀から始まっていたことが改めて確認できた。しかし、つづくフィンランド大公国期におけるロシアの影響は、演奏家・作曲家の交流があったことは明らかにされているが、音楽教育についてはいまだ先行研究がほとんどなく未知数である。この点については後日また検討したい。

また、NCC2004 における音楽科カリキュラムの目標に対し、筆者が観察を行ったさまざまな教育段階における現場の音楽科教員は、柔軟でありつつも、目標に沿って授業を展開し、子どもの反応に細やかに対応する指導スキルの高さを示していた。児童数に対する教員数の充実も挙げられ、就学前教育の授業では実習生を成人スタッフの一員として活用している場面も見られる。しかし、その一方で、小学校段階における教員の演奏スキルや、音楽の授業における IT 教材使用方法の研究といった課題も見られた。

そして、2016 年 8 月に施行された各地方自治体の主要都市の音楽科カリキュラムの概要を NCC2004 施行時と比較すると、NCC2014 の内容をそのまま市の音楽科カリキュラムに取り入れるな

ど、地方自治体による独自性が不明瞭になっているといった市の例が挙げられる。ただし、逆にユヴァスキュラ市など、NCC2014 の新たな各項目からさらに具体的に示す市があるなど、地方自治体の提示する音楽科カリキュラムの内容や質が多岐にわたっており、格差が生まれている。

加えて、NCC2004 における音楽科教育カリキュラムの評価プロジェクトに関する報告によれば、フィンランドでは今後 2020 年までに音楽科教員は年間 19 人、計 170 名ほど必要であることが算出されている。こうした人数から、音楽科教員希望者は、今後狭き門になることが予想される。このため、近年、他教科との兼任も増加しており、今後どのように音楽科教員養成課程カリキュラムを構築していくかといった点も課題になっていくと考えられる。

さらに、現在のフィンランドにおける教育カリキュラムの改革は、幼児教育から始まって最上位の高等教育段階における科学研究に至る、知識の連続性を重視している。フィンランドにおける教育の開発は、常に教育に関する関係者全員が協力して行われている。NCC2014 の新たな基礎学校プログラムの焦点は、新たな教授法、新たな学習環境、そして教育のデジタル化である。また、教員教育を刷新するため、フィンランド教員教育フォーラムも設立された。こうした教員教育も、教員養成の一部として、音楽科教員にどのような影響を及ぼすのか、今後の動向には注意が必要であろう。

また、生徒には、芸術・文化により積極的に触れられる、プロジェクト参加の機会も提供され、新たな改訂への動きを活発化させている。こうした次期改訂への動きの中で、さまざまな芸術を統合する科目としての音楽は、FCCS 改訂の 1994 年から記載が見られたが、具体的なコースの指示は見られなかった。新たなコースを提示したのは、LOP2015 が初めてである。高等学校が主体となり、プログラムを具体化することを示されているが、こうした新たな試みに対し、高等学校独自のカリキュラムが開発可能であれば、各学校の特色や、独自性を打ち出せることは可能であろう。また、生徒が高等学校選択の際のきっかけとなることも考えられる。しかし、逆に述べれば、コースを構築する高等学校の負担が増加するおそれはないのか、今後こうしたコースを提供する高等学校への継続した調査・研究が必要と考える。

さらに、近年フィンランド国内においては、教育機会の不均衡の是正、経済状況が厳しい中での資金確保、男児と女児における学力差などが新たな教育問題として挙げられている。

こうした近年のさまざまな課題を受け、次期改訂 NCC における音楽科カリキュラムが、どのような新たな方向性を示していくのか、また音楽科教員養成課程カリキュラムにおいて求められる教員の資質・能力がどのように変化していくのか、今後も継続して研究していきたいと考える。

文献

i. 資料

Helsinki: Opetus- ja kulttuuriministeriö (OKM) .

Hellström, Martti, Sata sanaa opetuksesta: Keskeisten käsitteiden käsikirja. Jyväskylä: WS Bookwell Oy, 2008.

Kajaanin kaupunki, *Kajaanin kaupungin perusopetuksen opetussuunnitelma 2016*.

〈<http://www.kajaani.fi/palvelut/perusopetus>〉 (cited 2017-03-15)

Kumpulainen, Timo, Koulutuksen Tilastollinen Vuosikirja 2011, Helsinki: Edita Prima Oy, 2012, pp.40-41.

Kuopion kaupunki, *Kuopion kaupungin perusopetuksen opetussuunnitelma 2016*.

- ⟨<https://eperusteet.opintopolku.fi/eperusteet-ylops-service/api/dokumentit/7679792>⟩ (cited 2017-03-15)
- Laki lasten päivähoidosta (19.1.1973/36)
- Laki sosiaali- ja terveydenhuollon asiakasmaksuista (1992/734)
- Lext,Gösta, *Studier i svensk kyrkobokförings 1600-1946, Göteborg 1984*; Nilsdotter Jeub,Ulla, Parish Records.19th Century Ecclesiastical Registers, Information from the Demographic Data Base,Umeå1993.
- Mikkelin kaupunki, Mikkelin kaupungin perusopetuksen opetussuunnitelma 1-9,2014.
⟨<http://mikkeliops.internetix.fi/index.php/Etusivu>⟩ (cited 2017-03-15)
- Nordic Council of Ministers, *Nordic Countries in figure 2013*. Copenhagen:Nordic Council of Ministers,2013.
- NBE., *Peruskoulun opetussuunnitelman perusteet 1985 [Basics for the curriculum of the comprehensive school 1985]*. Kouluhallitus.Helsinki:Valtion painatuskeskus.1985.
- NBE, *Framework Curriculum for the Comprehensive School 1994*. National Board of Education:Helsinki: Valtion painatuskeskus,1994.
- NBE, *National core curriculum for basic education 2004*. Finnish National Board of Education:Helsinki: Valtion painatuskeskus,2004.
- NBE, *National core curriculum for basic education 2014*. Finnish National Board of Education:Helsinki:Valtion painatuskeskus.
- OECD, *Early Childhood Education and Care Policy in Finland: Background report prepared for the OECD Thematicreview of Early Childhood Educationand Care Policy,2000*.
- opetusministeriö, Perusopetuslaki628/1998.
⟨<http://www.finlex.fi/fi/laki/smur/1998/19980628/>⟩ (cited 2017-03-15)
- opetus ja kulttuuriministeriö, Perusopetus 2020 yleiset valtakunnalliset tavoitteet ja tuntija,2015.
⟨<http://www.minedu.fi/export/sites/default/OPM/Julkaisut/2010/liitteet/okmtr01.pdf?lang=fi>⟩ (cited 2017-03-15)
- OPH, *Esiopetuksen opetussuunnitelman perusteista annetut lausunnot.1995*. Helsinki:opetushallitus.
- OPH, *Esietuksen opetussuunnitelman perusteet 1996*. Helsinki:opetushallitus ja Edita.
- OPH, *Esiopetuksen opetussuunnitelman perusteet 2000*. Helsinki:opetushallitus.
- OPH, *Esiopetuksen opetussuunnitelman perusteet 2010*. Helsinki:opetushallitus.
- OPM, *Esiopetuksen tila Suomessa, Valtioneuvoston selonteko eduskunnalleesiopetusuudistuksen vaikutuksista ja asetettujen tavoitteiden toteutumisesta,2004*.
- Oulun kaupunki, Oulun kaupungin perusopetuksen opetussuunnitelma,2004.
⟨<http://oulunopetussuunnitelma.wordpress.com/>⟩ (cited 2017-03-15)
- Oulun kaupunki, Oulun kaupungin perusopetuksen opetussuunnitelma,2014.
⟨https://www.ouka.fi/documents/1257266/16431900/oulunperusopetuksen_ops_2016.pdf⟩ (cited 2017-03-15)
- Oulun kaupunki, Perusopetus,2004.

<<http://www.ouka.fi/oulu/koulutus-ja-opiakelu/perusopetus>> (cited 2017-03-15)
 Perusopetuslaki (1998/628)
 Perusopetusasetus (1998/852)
 Seinäjoen kaupunki, Perusopetuksen opetussuunnitelma 2016.
 <http://www.seinajoki.fi/material/attachments/seinajokifi/paivahoitajakoulutus/alakoulut/zirRtfKZX/Seinajoki_-_Perusopetuksen_opetussuunnitelma_2016.pdf> (cited 2017-03-15)
 Sibelius Academy, Curriculum and course descriptions 2014-2015.
 Tampereen kaupunki, Tampereen kaupungin perusopetuksen opetussuunnitelma 2016.
 <http://www.tampere.fi/tiedostot/t/Bcnlf5iKh/Tampereen_kaupungin_perusopetuksen_opetussuunnitelma_2016.pdf> (cited 2017-03-15)
 Turukun Kaupunki, Turun kaupungin perusopetuksen opetussuunnitelma,2016.
 <<https://blog.edu.turku.fi/ops2016/hyvaksytyt/paikalliset-suunnitelmat/>> (cited 2017-03-15)
 University of the Arts Helsinki, Valintaopas: Musiikkikasvatuksen koulutusohjelma | Taideyliopisto
 <<https://www.uniarts.fi/valintaopas-musiikkikasvatuksen-koulutusohjelma>> (cited 2018-11-17)
 University of Juväskylä, Musiikkaikasvatus opetussuunnitelma 2013-15,2013.
 University of Oulu , Course Structure Diagram 2014-2015,Degree Programme in Music Education,2013. <[http://www.jammuuniversity.in/notify2010/5576-5600\(25-08-2010\).pdf](http://www.jammuuniversity.in/notify2010/5576-5600(25-08-2010).pdf)> (cited 2017-03-15)
 University of Oulu, KASVATUSTIETEIDEN TIEDEKUNTA VALINTAOPAS 2014,2013.
 <<http://www.oulu.fi/sites/default/files/content/Valintaopas%202014.pdf>> (cited 2017-03-15)
 Valitioneuvoston Kanslia, Pääministeri Jyrki Kataisen hallituksen ohjelma,2011.
 Yakko Finnno,Didrik Petori, “Piae cantiones” Greifswald: Augustin Ferber,1582.
 <<http://imslp.nl/imglnks/usimg/f/f4/IMSLP260656-SIBLEY1802.25581.933e-390870134352-03score.pdf>> (cited 2017-03-15)
 Jyväskylän kaupunki, Jyväskylän kaupungin perusopetuksen opetussuunnitelma,2014.
 <<https://peda.net/opetussuunnitelma/ksops/jyvaskyla>> (cited 2017-03-15)

ii. 参考文献

Alasuutari, Maarit, Kirsti Karila, Kirsi Alila ja Mervi Eskellinen,
 Vaikutavarhaiskasvatukseen:Lasten ja vanhempien kuuleminen osanavarhaiskasvatuksen
 lainsäädäntöprosessia, opetus ja kulttuuriministeriön-
 työryhmämuistioita ja selvityksiä, Helsinki, opetus ja kulttuuriministeriö (OKM) ,
 2014:13.
 Alila, Kirsi, Tajra Jahiluoto & Hanna-Mari Pekuri, Kohtivarhaiskasvatustilaa.
 Varhaiskasvatusta koskevan lainsäädännön uudistamistyöryhmän raportti. opetus ja
 kulttuuriministeriön työryhmämuistioita ja selvityksiä, Helsinki: opetus ja kulttuurimini-
 steriö (OKM) , 2014.
 Alila, Kirsi, Tajra Jahiluoto & Hanna-Mari Pekur, Varhaiskasvatuksen historia, nykytila ja

kehittämisen suuntalinjat. Tausta-aineisto varhaiskasvatusta koskevaa lainsäädäntöä valmistelevalle työryhmän tueksi. Opetus- ja kulttuuriministeriön työryhmämuistioita ja selvityksiä, 2014.

Allsup, R. E., Music Teacher Preparation and Curriculum, *Finland. School Music News*, 2011.

〈<http://docshare01.docshare.tips/files/27775/277758937.pdf>〉 (cited 2017-03-15)

Allsup, Randall E. and Heidi Westerlund, Methods and situational ethics in music education. *Action, Opiticism, and Theory for Music Education* 11 (1), 2012, pp. 124–48.

〈http://act.maydaygroup.org/articles/AllsupWesterlund11_1.pdf〉 (cited 2017-03-15)

Anttila, M., Challenges for Music Schools and Institutions in Finland. *Kurybos Erdves, the Spaces of creation*. 2, pp.7-12. Siauliai University, 2012.

阿波祐子「フィンランドの義務教育における音楽科カリキュラム」『音楽教育実践ジャーナル』 11 (2), 2014, pp. 142-153.

Darling-Hammond, L., “Steady Work: How Finland Is Building a Strong Teaching and Learning System.” *Voices in Urban Education*, 24, 2009, pp.15-25.

〈<http://www.annenberginstitute.org/VUE/>〉 (cited 2017-01-05)

Darling-Hammond, L. & Bransford, J., Preparing Teachers for a Changing World. San Francisco, Jossey-Bass, 2005.

Darling-Hammond, L. & McCloskey, L., “Assessment for Learning Around the World: What Would It Mean To Be Internationally Competitive?” *Phi Delta Kappan*, 90 (04), 2008, pp.263-272.

Earola, Tuomas & Louhivuori Jukka & Moisara, Pikko, Johdatus Musiikin tutkimukseen Suomen musiikkitieteellinen Seura, 2003.

Earola, Tuomas. & Päivi-Sisko Eerola, Extended music education enhances the quality of school life. *Music Education Research*, Vol.16, 2013, pp.88-104.

Elliott, D., *Music Matters: A New Philosophy of Music Education*. New York Oxford University Press, 1995.

FINLEX, Government Decree on University Degrees 794/2004.

〈<http://www.finlex.fi/en/laki/kaannokset/2004/en20040794.pdf>〉 (cited 2017-01-05)

Finnish Folk High School Association, Finnish Folk High School Association’s Member Meeting Document. Orivesi: Finnish Folk High School Association. Home pages of folk high schools in Finland, 2012. 〈<http://www.kansanopistot.fi/>〉 (cited 2017-01-05)

福田誠治『競争やめたら学力世界一 フィンランド教育の成功』朝日新聞出版, 2006.

藤井恵子「フィンランドの音楽科教育における即興演奏活動：就学前教育（プリスクール）に音楽科授業を視察して」『音楽文化教育学研究紀要』 (28), 広島大学教育学部音楽文化教育学講座, 2016, pp.75-82.

藤井恵子「フィンランドにおける学校音楽教育の変遷」『音楽学習研究』 11, 2015, pp.43-54.

Heimonen, M., Music Education and Law: Regulation as an Instrument, Helsinki, Sibelius-Akatemia, 2002.

Hölttä, Seppo, “Recent Changes in the Finnish Higher Education System” *European journal of Education*, Vol.23, Nos.1/2, 1988.

- Hyvönen, L. & Hirvonen, A. & Hyry E.K., “Three Stories about Finnish Music Education –What is the Basis of its Success? ” , *the European Conference on Educational Research*, Edinburgh, 2000, pp.20-23.
- 池田和秀「特別記事 小さな音楽教育大国・北欧フィンランド シベリウス音楽院の指揮者教育を探る - 授業は実践の場, 学びとる場」『音楽の友』64 (6) , 音楽之友社, 2006, pp.97-100.
- 伊藤真「ドイツの音楽科教育における学習領域に関する考察」『広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学研究紀要』XVIII, 2006, pp.43-44.
- 伊東治己「フィンランドにおける小学校英語担当教員養成システムに関する研究」『教育実践学論集』(9), 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科, 2008, pp.103-117.
- 岩田昌太郎・松浦伸和・角屋重樹・吉田裕久「フィンランドの教員養成における質保証の実態－ユバスキュラ大学のポートフォリオを事例として」『学校教育実践学研究』16, 広島大学大学院教育学研究科附属教育実践総合センター, 2010, pp.117-126.
- Johansson, Egil, *The History of Literacy in Sweden in Comparison with Other Countries*, Umeå 1977, pp.63-64 ; Jarrik, Arne, *Mot det moderna förnuftet*, Stockholm, 1992, pp.111-112.
- Johansson, Egil, “Kyrkan och undervisningen”, *Sveriges kyrkohistoria* Vol.4, Stockholm, 2002.
- Juvonen, A. & Anttila, M., *Focusing on Finnish and Estonian Music Teacher Education*. Kurybos Erdves, *the Spaces of operation 2*, Siauliai University, 2005, pp.22-32.
- Juvonen, A. & Ruismäki, H., *Artistic experience – the ways of experiences and thinking*. A short analyze of student teachers first and strongest art experiences. Presentation at the International Scientific Conference *Arts and Arts Education: Manifestation of operation*. Siauliai University, 2005.
- Kairavuori, Seija & Sintonen, Sara , *Arts Education: Instruments of Expression and Communication*. The Netherlands, Sense Publishers, 2012, pp.209-226.
- Kinnunen, K., *Kansanopistot väylänä korkeakouluun*. [Folk high schools as a route to university]. Espoo: Työväen Akatemia, 2008.
- Kirjapaino, Vammalan. Vammala, Oy, *National Core Curriculum for Basic Education 2004*. Finnish National Board of Education, 2004.
- 国立教育政策研究所『平成 24 年度 プロジェクト研究調査報告書 教育課程の編成に関する基礎研究報告書 4 諸外国における教育課程の基準 - 近年の動向をふまえて - 』国立教育政策研究所, 2013, pp.105-120.
- Kuikka, M., *Suomalaisen koulutuksen vaiheet*. [The history of Finnish education]. Keuruu, Otava, 1991.
- Kuikka, M., *Kasvatuksen historian tutkimus*. [Research of Educational History]. Helsinki, Otava, 2001.
- Lauri Väkevä, *Teaching popular music in Finland: what's up, what's ahead?* *International Journal of Music Education*, vol. 24, 2: 2006, pp.126-131.
- < <http://journals.sagepub.com/doi/abs/10.1177/0255761406065473?journalCode=ijma> > (cited 2017-01-05)
- Louhivuori, J, *Näkökulmia musiikkikasvatuksen merkityksiin*. Teoksessa *Musiikkikasvatus -vatusnäkökulmia kasvatukseen, opetukseen ja tutkimukseen*. Suomen musiikkikasvatus

-seura Fismery, 2009

Mackrill, D., Developing reflective practice using digital technologies in teacher training. *A paper presented at The Fifth International Conference For Research in Music Education Conference*, Exeter, England, 2007.

Maehr, M.L., Pintrich, P. & Linnenbrink, E., Motivation and Achievement, In R. Colwell & Richardson (eds.) *The New Handbook of Research on Music Teaching and Learning*. New York: Oxford University Press, 2002, pp. 348-372.

Mari Kopinen, The land of music playschools. *FINNISH MUSIC QUARTERLY*, 2006.

〈<http://www.fmq.fi/2006/09/the-land-of-music-playschools/>〉 (cited 2017-01-05)

文部科学省「小学校学習指導要領解説 音楽編」平成 29 年 3 月告示。〈<http://www.mext.go.jp>〉 (cited 2018-04-22)

文部科学省「中学校学習指導要領解説 音楽編」平成 29 年 3 月告示。〈<http://www.mext.go.jp>〉 (cited 2018-04-22)

虫明眞砂子「日本の学校教育における合唱教育の在り方について：フィンランドの音楽教育機関の制度を通して」『岡山大学大学院教育学研究科研究集録』148 巻, 岡山大学大学院教育学研究科, 2011, pp.39-48。

中藤有希「フィンランド初期芸術音楽に関する一考察：エリク・トゥリンドベリの弦楽四重奏曲について」『人文論究』56 巻 (4), 関西学院紀要, 2007, pp.75-92。

永岡都「フィンランドの幼児教育における音楽教育の意義と実践 —ナショナル・カリキュラムと「音楽プレースクール」をめぐって—」『學苑』896, ¥, 昭和女子大学, 2015, pp. 44-63。

長島真人「フィンランド共和国の音楽授業で観た子どもたちと教員 (海外教育事情)」『学校音楽教育研究：日本学校音楽教育実践学会紀要』11, 2007, p.211。

Esa-Pekka Salonen, “Focus on excellence in Finnish music education.” *Consulate General of Finland*, New York, 2007.

〈<http://www.finland.org/public/default.aspx?contentid=150774&nodeid=35833&contentlan=2&culture=en-US>〉 (cited 2017-01-05)

尾見敦子「諸外国に見る音楽教育における「幼小接続」：フィンランドとハンガリーの事例から」『川村学園女子大学研究紀要』26 (2), 2015, pp.43-62。

Partanen, P., Finnish Music Education. *Virtual Finland. Your window on Finland*, 2006.

〈<http://virtual.finland.fi/netcomm/news/showarticle.asp?intNWSAID=25821>〉 (cited 2017-03-15)

Partanen, P., Arts as an educator of the folk. In *Arts-Contact Points between Cultures. 1st International Journal of Intercultural Arts Education Conference: Post-Conference Book* (pp.45-52, eds. H. Ruismäki & I. Ruokonen) . University of Helsinki. Research Report 312. Helsinki: University Press, 2009.

Partanen, P., Koko talo soi: Klemetti-opisto suomalaisen musiikkikulttuurin kehittäjänä 1953-1968. [”The house is filled with music”: The Klemetti Institute as a developer of Finnish music culture from 1953 to 1968]. *Research Report* 310. Department of Applied Sciences of Education. Faculty of Behavioural Sciences. University of Helsinki. Helsinki: University Press, 2009.

Rikardi, Tuga, Music Education in Finland. *Mapping the common grove*, 2010.

- Ruismäki, H. & Ruokonen, I., Roots, current trends and future challenges in Finnish school music education. In A. Juvonen & M. Anttila (Eds.). *Challenges and visions in school music education: focusing on Finnish, Estonian, Latvian and Lithuanian music education realities*, University of Joensuu. *Bulletins of the faculty of education* no.100, Joensuu: University Press, 2006, pp.31-76.
- Ruokonen, I. & Sintonen, S., Koulu kulttuuri- ja kasvatuksen keskuksiksi! Luokanopettajaopiskelijoiden ajatuksia musiikki- ja kasvatuksesta kulttuurikasvatuksen osana [Schools to be centres of cultural education! Thinking of music education as a cultural education among students in class teacher education] *Musiikkikasvatus. Finnish Journal of Music Education* Vol 8/1, 2005.
- Saarikallio, S. & Erkkilä, J., “The role of music in adolescents' mood regulation” Research Article 2007. (<https://doi.org/10.1177/0305735607068889>) (cited 2017-1-23)
- Sahlberg, Pas., *Finnish Lessons: What can the world learn from educational change in Finland?*. New York and London, Teachers College, Columbia University, 2011.
- Salavuo, M., “Verkkoavusteinen opiskelu yliopiston musiikkikasvatuksen opiskelukulttuurissa.” (Network assisted learning in the learning culture of university music education.) *Jyväskylän Studies in Humanities* 45. University of Jyväskylä, 2005.
- Salavuo, M., “open and informal online communities as forums of collaborative musical activities and learning”, *British Journal of Music Education* 23: 3, 2006, pp. 253-271.
- Salavuo, M., “Both Sides Now. Designing an online community for musical activities and learning”, A paper presented at *The Fifth International Conference For Research in Music Education Conference*, Exeter, England, 2007.
- Salavuo, M., Social media as an opportunity for pedagogical change in music education. *Journal of Music Education and Technology*, 2008. (<http://miikkasalavuo.fi/SalavuoSocialMedia.pdf#search=%27finland%2Cmusic+education%27>) (cited 2017-03-05)
- Salavuo, M. & Häkkinen, P., “Epämuodolliset verkkoyhteisöt musiikin oppimisympäristöinä. Tapaus mikseri.net”, (Informal online communities as music learning environments. Case: mikseri.net.) *Musiikki* 1-2, 2005, pp.112-138.
- Salavuo, M., Ferreira, G., Unkari-Virtanen, L., “Kokemuksia oppimisympäristöistä musiikinopetuksesta”, (Experiences on using learning management systems in music education.) In J. Ojala, M., 2006.
- 千成俊夫「米国における音楽教育カリキュラム改革（Ⅰ）－60年代以降の動向をめぐって－」『奈良教育大学紀要』第33巻第1号，1984，pp.87-107。
- 千成俊夫「米国における音楽教育カリキュラム改革（Ⅱ）－60年代以降の動向をめぐって－」『奈良教育大学紀要』第34巻第1号，1985，pp.125-143。
- Studies of Finnish Folk High Schools, Study in Folk High School. Studies of Finnish Folk High Schools 2013-2014*. Orivesi: Finnish Folk High School Association, 2013.
- 田原昌子「フィンランドの音楽教育Ⅰ：日本フィンランド学校での指導とフィンランドの小学校音楽科授業視察を事例として」『プール学院大学研究紀要』49，2009，pp.299-310。
- 田原昌子「フィンランドの音楽教育Ⅱ：小学校音楽科教材に関する考察 1」『プール学院大学研究紀

- 要』 51, 2011, pp.173-188。
- 田原昌子「フィンランドの音楽教育 2—小学校音楽科教材に関する考察 2—」『プール学院大学研究紀要』 52, 2012, pp.147-161。
- 田原昌子「我が国の音楽科教育法に関する研究（1）フィンランドに学ぶ音楽科教育法」『プール学院大学研究紀要 = Journal of Poole Gakuin University 』 (53), 2012, pp.57-71。
- 田原昌子「フィンランドの音楽教育 II: 小学校音楽科教材に関する考察 3」『プール学院大学研究紀要』 54, 2013, pp.47-62。
- 玉木裕「生涯学習の視点からみる音楽科教育・音楽振興法とフィンランドの教育思想をとおして-」北翔大学北方圏学術情報センター年報 = Bulletin of the Northern Regions Academic Information Center, Hokusho University 1, 2009, pp.69-81。
- Tokie, N. & Russell-Bowie Deirdre. & Majanen Kaarina. 「The effectiveness of integrating music and other subjects on students' development : the music education situation in Australia and Finland and its implications for Japan」上越教育大学研究紀要 32 卷, 上越教育大学, 2013, pp.409-418。
- Veblen, K. & Olsson, B., “Community Music. Toward an International overview” , In R. Colwell & Crichardson (eds.) The New Handbook of Research on Music Teaching and Learning. New York, Oxford University Press, 2002, pp. 730-753.
- Vonderwell, S. & Zachariah, S., “Factors that Influence Participation in Online Learning” , Journal of Research on Technology in Education 38: 2, 2005, pp. 213-230.
- Virtanen, S. & Kärkkäinen, L. (Eds.), opiskele kansanopistossa. Folkhögskolestudier. Opinnot 2006–2007. [Study in Folk High School. Studies 2006-2007], Helsinki: Suomen Kansanopistoyhdistys – Finlands Folkhögskol-föreningry, 2005.
- Weigel, V., From course management to curricular capabilities: a capabilities approach for the next generation. *Educause Review* 40:3, 2006, pp.54-67.
- Wenger, E., Communities of practice: learning meaning, and identity, New York, Cambridge University, 1998.
- 渡邊あや「平成 26 年度プロジェクト研究報告書 初等中等教育の学校体系に関する研究 報告書 1 諸外国における就学前教育の無償化制度に関する調査研究 第 5 章 フィンランドー『全ての子どもに質の高い就学前教育を』という目標を掲げ義務化ー」国立教育政策研究所, 2015, pp.95-110。
<https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/h26/1-3_all.pdf> (cited 2017-01-05)
- Westerlund, H., “Reconsidering the Aesthetical Experience in Praxial Music Education. ” *Philosophy of Music Education Review* 11.no.1, 2003.
- Westerlund, H., “Garage Rock Bands: A Future Model for Developing Musical Expertise?”, *International Journal of Music Education*, 24: 2, 2006, pp.119-125.
- Westerlund, H. & Juntunen, M-L., “Music education and teacher preparation in Finland : Facing plurality in music and adapting to multiple needs.” In S.Figueiredo & J.Soares (eds.) *The preparation of music teachers : A global perspective. Brazilian University Press*, 2015.
- 山田真知子「フィンランドのフィギュア・ノート音楽療法 : 知的障害者の生活の質の向上にむけて」『生涯学習研究と実践 : 北海道浅井学園大学生涯学習研究所研究紀要』 8, 2005, pp.215-224。